

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

子どもとマスク

最近の新聞記事から

「マスク時代のコミュニケーション 顔の見方に文化差、マスクは子の発達に懸念も」

(朝日新聞 2021年2月7日) 朝刊 グローブ6面

マスクの心理学的意味と子どもの発達への影響の可能性を、中央大学の山口真美教授(心理学)に聞いている。ほぼ同内容の記事をGLOBE+「なぜアジア人と欧米人でマスクへの意識が違うのか 専門家が教える、その科学的裏付け」(<https://globe.asahi.com/article/14183725>)で読むことができる。

新型コロナウイルス感染症対策のための新しい生活様式では、マスクの着用が基本的な対策の一つですが、小さな子どもや、障害等のある子どもの場合はどうすべきか、大人が迷う場面もあるかもしれません。また、周囲の大人がマスクを着用しつづけることについては、必要である一方、発達への影響を懸念する専門家もいます。

経験のない感染症について様々な見解がある中で、複数の視点から、考えるヒントになる情報を集めました。

【子どものマスク着用について、専門機関の見解】

書名・記事名	出版情報
「こどものマスク着用について」	日本WHO協会 2020年8月25日 Web 情報 https://japan-who.or.jp/news-releases/2008-10/
限定的なエビデンスではあるものの「5歳以下の子どもは必ずしもマスクの着用にこだわらなくてよい」という見解をWHOとユニセフが示したと紹介。社会心理的な必要性和発達状況が加味されている。WHOの英文のページへのリンクと、子どものマスク着用に関するアドバイスの日本語訳(仮訳)へのリンクがある。日本語訳を参照すると、5歳以下、6~11歳、12歳以上で分けた記載になっており、「障害のある子どものための特別な追加考慮事項」が掲載されている。	
「子どもおよび子どもにかかわる業務従事者のマスク着用の考え方」	日本小児科学会 2021年1月31日 Web 情報 http://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=128
子ども(特に2歳未満や障害のある場合)のマスク着用には、誤嚥や窒息などの危険性があるため注意が必要であること、子どもにかかわる業務従事者は、マスクその他の防護具の使用方法を正しく理解すべきであることを示している。参考情報として米国疾病予防管理センター(CDC)の Q&A や米国小児科学会(AAP)の 記事 へのリンクがある(いずれも英文サイト)。	
日本小児科医会からのメッセージ	日本小児科医会 Web 情報 https://www.jpa-web.org/activity.html
2020年5月25日付で「保護者の皆様へ「2歳未満の子どもにマスクは不要、むしろ危険!」」(PDF)を掲載、乳児のマスク着用により呼吸や心臓への負担・窒息や熱中症のリスクが高まることを知らせている。	

【マスク着用の子どもの発達への影響について、保育や教育の専門家の話題】

書名・記事名	出版情報
新型コロナウイルス関連情報	全国保育園保健師看護師連絡会 Web 情報 https://www.hoiku-kango.jp/index.php/corona_topics/

<p>保育園看護職の団体による情報掲載ページ。「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第2版」(PDF)は、2020年8月までの情報。感染症対策として、職員と軽微な症状のある者は原則的にマスクを着用、子どもは年齢や活動場面に応じて着用をすすめるとしている(p7,9-11)。午睡中は外す、交換できるように多めに持参してもらう、発達段階に応じて子どもに説明するなど、保育所等での実態に合わせた記載となっている。</p>	
<p>マスク着用が保育に及ぼす影響に関する 保育者の認識</p>	<p>西館有沙『富山大学人間発達科学部紀要』(10巻2号 2016) p125-130 http://doi.org/10.15099/00015060 雑誌</p> <p>新型コロナウイルス感染症流行以前の研究。多くの保育者が風邪を引いたときや病気が流行しているときはマスクを着用すべきと考えているが、6割を超える保育者がマスク着用によって困った経験があるとの調査結果を示している。ウェブ上でも読むことができる。</p>
<p>マスクが子どもの発達に影響？</p>	<p>NHK NEWS おはよう日本 けさのクローズアップ Web 情報 2020年11月12日 https://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2020/11/1112.html</p> <p>ニュース番組のフリップを使いながら、わかりやすく伝えている。京都大学の明和政子教授(教育学)が、1歳くらいまでの時期に子どもは人の顔(目・鼻・口)を見て、表情を学習すること、家族が表情を見せることを意識してほしいことを伝える。4歳から10歳くらいまでの子どもの脳は、相手の視点に立って考えることを発達させる時期なので、表情が見えづらい分ボディランゲージを使ってみることを提案する。</p>
<p>自分の顔が好きですか? 「顔」の心理学</p>	<p>山口真美著 岩波書店 2016 図書 中央:としょ部 J141/ヤマ</p> <p>認知心理学、発達心理学の研究者である著者による岩波ジュニア新書。赤ちゃんやその後の年代での顔認識の学習(p29-36)、視線を読み取る能力(p83-90)、表情(p136-159)等について知ることができる。このほか『赤ちゃんの視覚と心の発達 補訂版』(山口真美・金沢創著 東京大学出版会 2019 中央所蔵)第9章「顔を見る」では、目・鼻・口の配置を重視した顔認識や、表情を読む際に注目するパーツなど赤ちゃんの顔認識について書かれている。また、『顔の百科事典』(日本顔学会編 丸善出版 2015 西部所蔵)第4章(p218-309)にも、顔認知を含めた顔の心理学についての記載がある。</p>

【マスク着用に関する困難のある子どもについて】

書名・記事名	出版情報
<p>マスク着用が難しい子ども、必要な対応は</p>	<p>『日本教育新聞』2021年2月8日 p3 新聞 東部所蔵</p> <p>発達障害や感覚過敏などの特性のある子どもたちは、マスクが肌に触れるのがつらかったり、必要性が理解できない場合があると「発達障害情報・支援センター」の調査結果にもとづいて紹介。中学生が起業し、意思表示カードを無料公開している感覚過敏研究所(https://kabin.life/)の取り組みについても紹介している。</p>
<p>新型コロナウイルス感染対策と聴覚障害児への配慮</p>	<p>石川県立ろう学校 きこえの相談支援センター Web 情報 https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/rouxxs/wysiwyg/file/download/1/825</p> <p>聴覚障害のある人にとって口の動きは重要な情報だが、マスク着用により読み取れなくなる困難がある。補うために視覚情報で伝えることや、マスクの代わりに使用できるものを紹介する。</p>
<p>わけがありますくプロジェクト</p>	<p>https://www.wakega-arimask.com/ Web 情報</p> <p>やむを得ない事情によりマスクを着けられない人がいることを多くの人に知ってもらうことを目的に、意思表示ツールを作成し、自治体や行政機関との連携を行っている。個人でも意思表示カードのデータをダウンロードできる。</p>

(インターネットの最終確認日:2021年3月18日)

作成:千葉県立中央図書館(児童資料室)